

# Wing ういんぐ

Vol.31 2009年 春



ワーク・ライフ・バランス シンボルマーク(内閣府)

## 《特集》女性のチャレンジ

### 目次

- 特集 女性のチャレンジ 女性が変わる、地域を変える…………… 2~3
- 「日本女性会議2008とやま」参加報告…………… 4
- 「おでかけSANKAKU講座」を開催…………… 6~7
- チャレンジする女性たち…………… 5
- 事業の報告・案内／キッズコーナー…………… 8

### 男女共同参画推進団体講習会「ブラッシュアップセミナー」 ～団体活動のブラッシュアップと男女共同参画～

日時 平成20年11月6日(木) 10:00~11:30  
会場 市総合保健福祉センター  
講師 松本光司さん(川部小学校長)

#### 〈現状と男女共同参画の推進〉

日本は今、大きな転機にあり人口減少社会へ向かっています。反面、65歳以上の高齢者の全体に占める割合は2008年に17%、2200年には40%になるであろうと予測されています。

加えて社会情勢は、医療・食糧・景気について不安を持っている人が多く、地域格差が広がっていると感じています。そのような動きのなか、スポーツ界で世界と対等の力を付けていることや政策決定の場に進出するなど、女性がいろいろな場で活躍し仕事と生活を両立する姿が見られるようになってきました。2002年の調査で「男は仕事、女は家庭」という意識が逆転したように、男女の色分けは少なくなり、子どもたちがランドセルに好きな色を選ぶなど、それぞれが自分の生き方を選択できるようになってきています。

これからは、力のある人が弱い人を助けて回っていく社会にするために、同じことでも視点を変えてその人なりのスタンスを持って、さらなる男女共同参画を進めていくのがいいのではないのでしょうか。

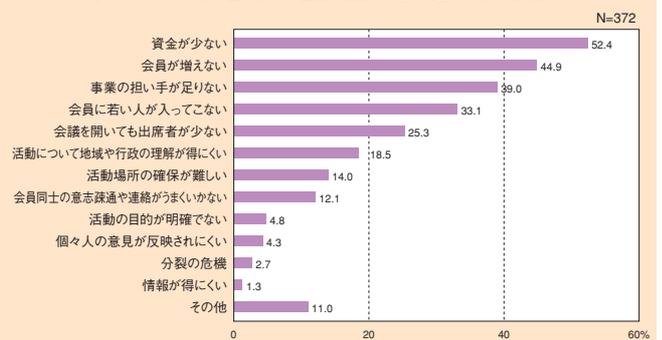
#### 〈団体活動の現状とこれから〉

団体活動の現状として、資金がない、会員が増えない等の悩みがありますが、どう対処するか、旭山動物園(北海道旭川)の例を見てみましょう。年間入場者数が1996年に26万人だったのが2004年には145万人に増えました。この成功は「動物園に来るのは大人だ」と分析し、何度も来てもらえるように三つの工夫をしたからです。見世物ではないというコンセ

プトを基に、①動物に合わせた行動展示、②飼育係だけが知っている動物の習性を観客にも知ってもらう、③飼育係一人ひとりの考えと特技を生かした動物紹介を、各自手作りでアピールするということで動物園再生を成し遂げたのです。このようにこれからの団体活動は、「不易」(変わらないこと)から団体の意義や仲間の和と輪、と「流行」(変わること)を考えなければなりません。

まず、資金の公的補助は難しくなってきたので、お金を当てにせず自分たちでやっていくと発想を変える必要があります。研修などの運営については「連携」という言葉がキーワードになるでしょう。例えば、三つの団体が組めば労力は三分の一にアイデアは3倍になります。変えないことと変えることを見極め、伝え合う場所を設け、人(会員)を生かし自分たちの資源とし活用するのです。会員が増えている団体はアピールが上手です。目に見えることをすると人は関心を持ってくれるので、「一緒にやってみませんか」と声をかけてみましょう。そうすることで皆が生き生きと輝く団体活動になり、人と人がつながり合う社会になるのではないのでしょうか。

グループが抱える活動上の課題(複数回答)



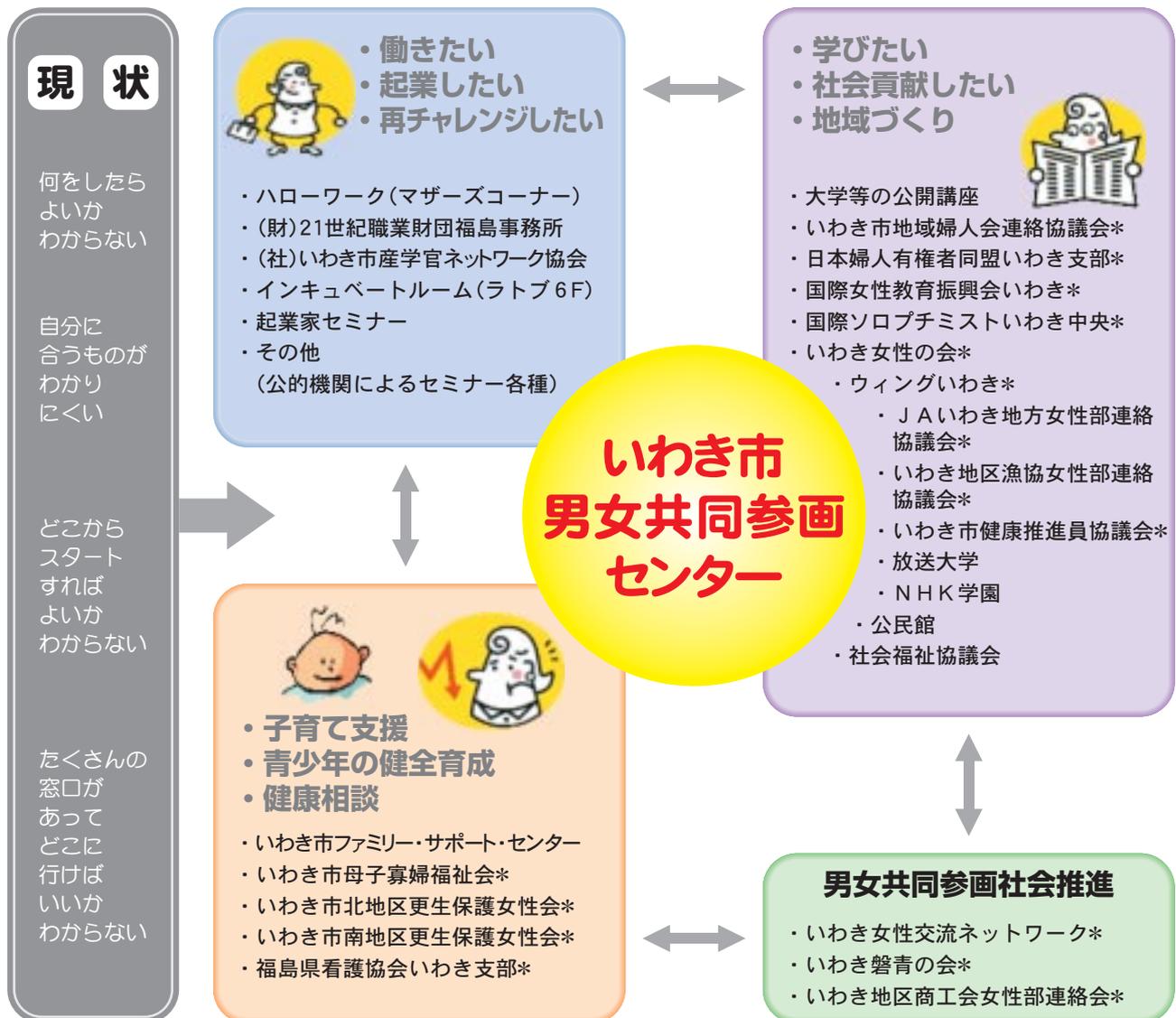
「女性の活動と学習に関する調査」 日本女性学習財団 2005年3月

# 女性が変わる、地域を変える

内閣府では、あらゆる女性の参画推進への取り組みとして「女性の参画加速プログラム」を策定しました(平成20年4月8日)。その基本的方向として、意識の改革、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現、女性の能力開発・能力発揮に対する支援が掲げられています。

いわき市でも、いわき市男女共同参画センターを拠点として様々な女性団体が活動しており、チャレンジのネットワークを広げています。あなたも、何かチャレンジを見つけてみませんか。

## 一人ひとりのニーズに合ったチャレンジネットワーク



\*チャレンジネットワークとして、公的機関の他に、いわき市女性団体連絡協議会に登録している15団体を掲載しました。それ以外にも活動している団体がありますので、詳細につきましては、下記までお問い合わせ下さい。

いわき市市民協働部 男女共同参画センター  
 電話：0246(27)8694 FAX：0246(27)8641  
 E-メール：danjokyodosankaku@city.iwaki.fukushima.jp

連携・協力  
**福島県  
 男女共生センター**

# “一步前”へあなたを応援

## ～ 地域活動紹介 ～

Why don't you  
Join us?



### いわき女性交流ネットワーク

代 表：稲田雅子

Homepage:<http://www6.ocn.ne.jp/~womennet/>

E-mail:[iwaki.joseinet@gmail.com](mailto:iwaki.joseinet@gmail.com)



### いわきふれあいサポート

(DV防止・被害女性支援市民団体)

代 表：黒須敦子 事務局：松崎節子

問い合わせ：TEL/FAX 22-4907



#### 生活者の立場からまちづくり

いわき女性交流ネットワークは、平成11年1月30日に「いわき市女性プラン推進懇話会」の中から生まれました。

当時は、市内の女性による活動団体や生涯学習の場を把握するのが難しく、情報の交換や生涯学習の場が求められ、市内の団体や個人が自由に参加できる団体として「いわき女性交流ネットワーク」が設立されました。

以来、いわき市共催の「転入女性交流のつどい」・「親子のたまり場モデル事業」・「シネマ&トーク」、日本女性会議参加、スキルアップセミナー、エンパワーメントセミナーなど、多くの活動を通して、市民相互のよりよい交流と生活者の立場からのまちづくりをめざしています。

また、開設されているホームページ、ニュースレターを尚一層充実させ、会員の方たちとの情報交換の場としてつながりを深めていきたいと考えています。

#### 加入団体 (平成20年4月1日現在)

- ・いわきおやこ劇場
- ・いわき女性建築士の会
- ・いわき母親連絡会
- ・ウィングいわき
- ・(特)いわき転入女性の会 NCWC
- ・the People
- ・シャプラニール いわき連絡会
- ・ボランティアグループ ピープルワン
- ・ほのぼの22
- ・新日本婦人の会 いわき支部
- ・フィットネス体操協会
- ・子育てネット いわきフレンズ



#### 民間と行政・関係機関の協働をめざして

いわきふれあいサポートは、女性保護事業を通して、人権の確立をめざして啓発活動を行う一方、具体的な活動として、いわき市女性相談員と連携して、DVなどさまざまな問題を抱える女性に対して電話相談・緊急一時避難・生活支援を行っています。

この活動は、主に会員の会費と賛同者による寄付金や支援物資によって賄われていますが、平成19年度から「配偶者などからの暴力被害者等緊急一時避難支援事業」として、部屋の賃貸・ホテルなどの利用についていわき市から補助金の交付を受けることができるようになりました。

しかし、この活動を充実したものにするためには、物資面ばかりでなく、安全・安心の確保、メンタル面でのサポートなど多くの課題を抱えており、ケアスタッフも含めて、さまざまな支援ボランティアが不可欠です。今後は、DV被害者等の支援、シェルター運営などの更なる活動の充実を図るため、民間、自治体、関係機関が連携・協働で活動を推し進めたいと考えています。

### いわきNPOセンター

理事長：鈴木和隆 TEL.0246-29-4600

Homepage:<http://www.iwakinpocenter.org>

E-mail:[info@iwakinpocenter.org](mailto:info@iwakinpocenter.org)



#### 市民活動を支援するNPO

いわき市において、ボランティア団体・市民活動団体・NPO法人等が実際に活動を始めますと、スタッフが集まらない、会議を開く場所がない、情報交換や交流するための施設が少ない、資金の手当てがない、法律や税金のことがわからないなど、さまざまな課題が発生します。このような課題を共に考え、解決していくことを目的として設立されたのがNPO法人いわきNPOセンターです。

いわきNPOセンターでは、市民活動に係わる支援・教育事業、センター機能の提供に係わる事業(プレ市民公益活動支援センターの運営)、NPO法人の設立・運営に係わる事業、市民活動に関するシンクタンク事業などを通して市民活動を支援しています。

特に、プレ市民公益活動支援センターでは、市民活動の活動・交流拠点として会議スペースの貸し出しやNPO設立・運営相談、また各種サークル活動の実施、いわき明星大学ボランティア・活動支援ビューローの紹介など多方面で支援しています。

# さらにチャレンジし男女共同参画社会の実現を

～「日本女性会議2008とやま」参加報告～

「煌く人とひと、連なる峰々へ」をテーマに「日本女性会議2008とやま」(実行委員会、富山市主催)が10月17・18日(金・土)に開催されました。全国から約2,600人が参加し、様々な課題につき学習や意見を交換し男女共同参画の推進に向けて理解を深めました。最後に、「男女共同参画社会の実現に向けさらにチャレンジし、自分らしく生きるために未来を切り開く」との大会宣言を採択し、二日間の日程を終了しました。

## 第1日目 会場：オーバードホール 富山市内

### 基調報告「男女共同参画社会の実現を目指して」

板東久美子さん(内閣府男女共同参画局長)

男女共同参画基本計画(2次)に基づき、各種施策を推進しています。中でも本年4月に策定した「女性の参画加速プログラム」に基づく取り組みを戦略的に進めていますが、今だ道半ばです。政府、地方公共団体、民間団体、ひいては国民一人ひとりが協働して取り組むことが重要です。

今後は社会の様々な課題を男女共同参画の考え方で解決する実践的な活動が大事になります。

### 基調講演「男女共同参画 何が変わるのか？」

広岡守穂さん(中央大学法学部教授)

男女共同参画とは、みんなが持って生まれた自然性を尊重することです。初孫がダウン症で生まれてきたことで人生を振り返ることができました。障がい者が自立した生活をできるように、社会のルールを変えることを男女共同参画で推進するのもデモクラシー(民主主義)であると思います。

人間は自分を見つめてくれる人、求めてくれる人が欲しいものです。男女間のあり方も、見下げたり見上げたりの関係でなく、水平の高さで自立した関係として見つめ、求めることのできる社会、これこそ男女共同参画社会だと考えます。

### シンポジウム「みんなが輝く未来のために」

シンポジスト: 鹿嶋 敬さん(実践女子大学人間社会学部教授)

高橋はるみさん(北海道知事)

岩田喜美枝さん(㈱資生堂代表取締役副社長)

コーディネーター: 広岡 守穂さん(中央大学法学部教授)

#### 鹿嶋 敬さん

政府の男女共同参画に関する専門調査会の調査結果から高齢者の男女格差などを紹介し、「男女共同参画という切り口で解決できる問題は数多くあります。娘は結婚相手に“家事は手伝うものではなく、分担するものです”と言っていました」と話しました。

#### 高橋はるみさん

北海道は管理職への女性登用率や審議会の女性参加などが全国で41位であることを示し、「女性知事として、行政のきめ細かい対応をしていくことが重要です。ワーク・ライフ・バランスを経済界で推進するには、利益やメリットは何かを説明し、プラス面を提案、提供する必要があります」と述べました。

#### 岩田喜美枝さん

女性のリーダーの育成と登用、男性の育児休業取得に向けた工夫などを紹介し、「競争がグローバル化し、企業は経営上からも男女共同参画が必要です。コストがかかることは確かですが、ダイバーシティマネジメント(企業経営において多様性を活かし成果を上げる手法)の視点を大切に、生産性向上につながるという認識をもつとだと考えます」と話しました。

## 第2日目 会場：ポルファートとやま

### パネルディスカッション(第9分科会) 「政策決定における男女共同参画」

パネリスト: 白井 文さん(尼崎市長)

横井千香子さん(㈱クレディセゾン取締役)

佐藤 香さん(YKK㈱健康推進企画グループ長)

宮崎 公順さん(富山商工会議所理事・事務局長)

コーディネーター: 奥田 実さん(富山県立大学工学部教授)



奥田実さんは「日々の生活の中で足元の男女共同参画を見つけ、実践することが重要です」と語り、宮崎公順さんは「産業構造では製造業が多く、女性の就業率は全国で上位。共働きが多い富山県だが、若い人ほど家庭を優先したいとの考えが強いようである」と県内の特色を述べられました。白井文さんは「市長自身で中小企業訪問をし、女性採用に努め、新聞やテレビを味方につけワーク・ライフ・バランスで頑張っている企業を表彰しています」と話し、横井千香子さんは「パート労働者を通常労働者へ転換する制度を推進しています」と述べ、佐藤香さんは「男女共同参画を推進するためにキャリア形成のための制度を導入しています」と現状を説明しました。

日本女性会議は1975年の「国際婦人年」を契機に、総理府(現内閣府)が後援して'84年に名古屋市で第1回が開かれました。次回は平成21年10月30日・31日(金・土)に堺市で開催される予定です。

日本女性会議2009さかい <http://2009sakai.jp/>

# 私を育む この “いわき”

社会環境の変化とともに、女性の生き方も多様に変わってきました。ここに紹介した3名の方々は、転入後いわきに根を下ろし、自分自身の向上と、より充実した地域環境を求めて、活動の場と人間関係を自ら切り開いてきたチャレンジの人たちです。

現在の活動に携わった動機や  
“いわき市”へのメッセージを  
寄稿していただきました。



## 地域が人を育てる



初瀬 富士美さん  
「子育てネットいわき  
フレンズ」で活躍  
神奈川県逗子市出身  
泉在住

私は十六年前にいわき市に転入し、家庭を持ち子どもにも恵まれました。もちろん最初は自分のことしか考える余裕がありませんでした。しかし、家族ができたことで、次第に人との交流が広がっていききました。近所づきあいから始まり、学校、地域とたくさんの人と知り合う機会にも恵まれました。その一つ一つの出会いが喜びであり、学びであり、私を親として人として成長させてくれたと思っています。

現在市内で、地域における子育て支援を目的としたボランティア活動および公民館講座の講師を行っています。そのような場において、私は自分自身が学んできたことや行ってきたこと(経験・体験を含め)を、学びたい、知りたいという人に伝えていきます。私がこうした活動を続けているのは「今、何が大切なか、何をすべきなのか」と自分に問う思いと、「必要なときに必要なことを行つべきである」という強い意志を持っているからです。さらに、自分の決めたことは、責任を持ち、やり遂げようとするのも大切なことだと思います。いわき市は、気候も温暖で自然にも恵まれた豊かな地域です。そして、何よりも住んでいる人の温かさが伝わってくるところです。私は、この地で、自分の活動を通し、一人ひとりの力は小さくても、人と人のつながりを大切にし、互いに助け合い、協力することで大きな力を生み出すことができる、身をもって知りました。これからも、いわき市が『人を育む住みよい豊かなまち』であることを願っています。

## 地域の子育て応援団



作田 由利子さん  
「いわき子育て応援団  
あいる」で活躍  
静岡県藤枝市出身  
平在住

夫の転勤で引越すことの多かった私は、それぞれの地で育児サークルや子育てボランティア等に所属しながら子育てをし、仲間を作ってきました。そこで多くの人達に支えられ、楽しみながら子育てをすることができました。

いろいろな活動をする中で、現在は様々なライフスタイルがあり、核家族も多く、また仕事と子育ての両立など子育てに悩みを抱えている人も多いことを知りました。

子育ては、一人では大変と感じることも多いけれど、仲間を作ったり地域の人達と支え合うことで悩みを共有したりし、楽しく子育てをすることができるよう環境作りをお手伝いできたらいいなと思うようになりました。子育て応援団あいるを立ち上げました。

「いわき子育て応援団あいる」では、子育てを応援したいと思う地域の人達とネットワークを組む、いざという時にお子さんをお預かりしたりしています。(具体的には、病児・病後児の預かり、また急な残業や宿泊を伴う夜間の預かりなどを行っています)

「いざという時は、お互い様よ。私達がサポートするわよ!」という心強いスタッフ会員さん達と共に私も地域の一員として、いわき市に住むお父さんお母さん達が、仕事をしながら子育てをしても、自分らしくいきいきと過ごす事ができるよう、また子ども達も笑顔でいられるように応援していけたらいいなと思います。また、その輪が広がり、より多くの地域の人たちの力でいわきの子ども達を見守っていただけると思います。

## 三人で一人分



稲田 雅子さん  
「いわき女性交流ネット  
ワーク」で活躍  
福岡県大牟田市出身  
中央台在住

私が結婚を機にいわきに来てから二十七年が経ちました。子育てに追われ自分が社会から取り残されていく不安を強く感じていた時期、六年間過ごした東京世田谷区といわき市とを何かにつけて比較してはつい不満と愚痴を夫にこぼしていた頃(今思えば育児ノイローゼに陥っていたのだと思います)、恩師から「子どもを理由に何もできないと嘆くより、子連れでもできることをひとつでもやってみたら」と指摘され、そんな時期に出会ったのがいわきおやこ劇場でした。

「いわきで育つ子どもたちに生の舞台の感動を・親子の共通体験の場をつくらう」と手探りで活動する人達とともに運営にたずさわること、育児は育自・子どもたち自身の育つ力を信じること・ボランティアや市民活動など、たくさんの方の力を学ぶ機会を得ました。特に「子連れで一人分の働きがでなくても三人でひとり分働けばいいんじゃない」との言葉は目からウロコで、そのとき初めて自分にも何かできるかもしれないと希望をもったことを今でも思い出します。

現状を嘆いて不満を言うだけでは何も変わりません。自分が動くことで社会とつながりほんの少しでも働きかけることができればいい、そんな気持ちで「親と子のたまり場」も始めました。他人まかせでなく批判するだけでなく、市民と行政がともに協力しあう、公助や共助(ささげあい)の小さな実践が可能ないわき市であってほしいと願いながら、たくさんの方の厚意に支えられながら活動を続けています。

企業へ!!

# おでかけ SANKAKU講座

開 催 報 告

講師を企業に派遣し、「ワーク・ライフ・バランス（以下W.L.B）の必要性」について講義する“おでかけSANKAKU講座”を開催しました。

「仕事」と「仕事以外の自分の生活（家庭・地域・学習）」、両者がベストバランスを保つことによって相乗効果を生むということ、特に、働き盛りの方々に理解してもらうための初の試みです。

興味深いアンケート結果も右のページに掲載しました。一緒にW.L.Bについて考えてみませんか。

## 医療法人養生会 かしま病院 コミュニティホール

平成20年11月20日（木） 16:30～18:00

福島県立医科大学の藤野美都子教授が『ワーク・ライフ・バランスのすすめ』と題して講話しました。それぞれ病院の勤務時間を調整して受講された様々な制服姿の職員（男性10人女性34人）の皆さんに「W.L.Bとは様々な活動を自らが希望するバランスで展開することができる状態」と解説し、自らも医療従事者と日々関わっている関係から「安心・安全の医療を提供するためのW.L.B」について話され、職員の方との意見交換も活発に行われました。



## ひめゆり総業株式会社内 （産業廃棄物処理業）

平成20年11月21日（金） 15:30～17:00

講師として舟木仁（藤田建設工業㈱ 取締役白河支店長兼企画室長）さんが、『真のワーク・ライフ・バランス』と題し、従業員（男性27人女性3人）の皆さんに講話をしました。舟木さんは毎日自分で作るお弁当を示しながら、家事を経験し共同で行うことで連帯感が生まれそこから生じる受容と寛容は、会社での思いやりや仕事での気づきにつながることを話されました。またW.L.B（仕事と生活の調和）は企業と家族の協力により自分の人間としての視野を広げることであり、実現するには時間の有効的利用を検証し無駄をチェックすることが大切だと述べました。

そして真の男女共生とは、脳の働きに違いのある男女が実際に家事・育児・男仕事・力仕事を共に経験することにより、互いの違う感性や考え方を理解し意識することであり、そこから自分の得意分野での活動を楽しみ、地域活動など人生全体のバランスをとっていく生き方【ドーパミン（欲望に支配された人生）とセロトニン（人を愛する人生）をバランスよく出す生き方】が、自分の成長であり自己実現につながる真のW.L.Bであると話されました。



## リサイクルプラザ 「クリンピーの家」研修室

平成21年1月19日（月） 15:30～17:00

いわき市再生資源協業組合（資源ごみ選別業務）の職員の皆さん35人を対象に舟木仁さんを講師に同様の講座を開催し、労働者側の視点からW.L.Bを解かり易くお話していただきました。





# SANKAKU講座で聞きました!

## アンケートデータ

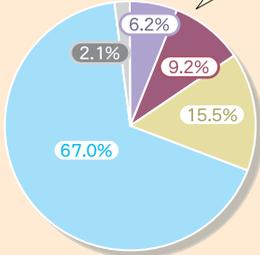
Answer 受講者109人中 97人回答(回収率89.0%)

Gender 男性44人(45.4%) 女性52人(53.6%) 無回答1人(1.0%)

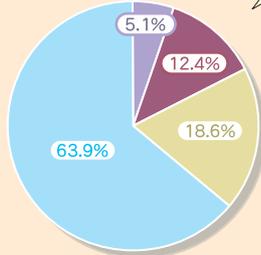
Age 20歳代3人(3.1%) 30歳代21人(21.6%) 40歳代36人(37.1%) 50歳代28人(28.9%) 60歳代9人(9.3%)

■ そう思う ■ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない ■ そう思わない ■ 分からない ■ 無回答

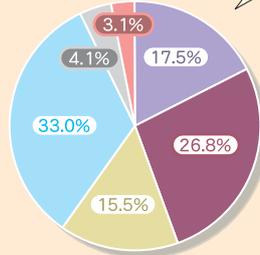
夫は外で働き、妻は家庭を守るべき



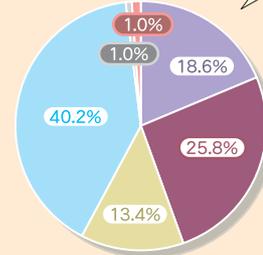
家庭の事を十分にできないなら、女は働かない方が良い



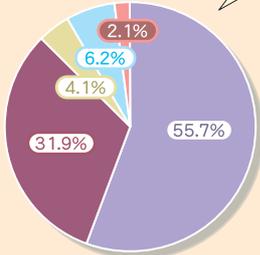
子供が3歳位になるまでは、母親は育児に専念すべき



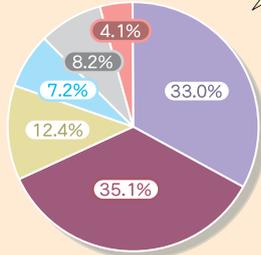
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべき



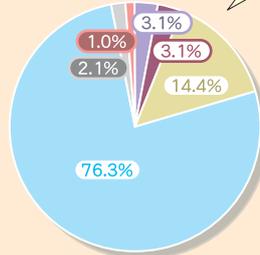
子育てには父親も母親と同じだけ関わる事が必要



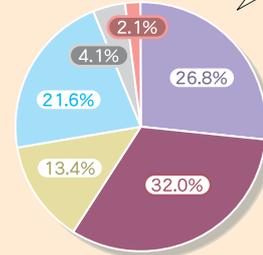
家事・育児をすることで自分自身の生活が豊かになる



職場での仕事と比べると、家事・育児は簡単



同僚が皆残っているのに、一人先に帰るのは難しい



## 講座についてのご意見・ご感想

- 男性の意識改革が必要と思います。(特に50～60歳代)
- 「女性にとって働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい環境になる。」という視点には、はっとさせられました。
- 家族間で男女共同参画を理解しあえても、社会側の受け入れが十分確立されていない。子どもが発熱したときに見てくれる人がいない。育児への補充スタッフはゼロ。部署によって不公平、上司次第。
- 家庭で役割、当然のようにしている仕事も時には、ありがとうの言葉を言ってみるのも大事なんだと思いました。何かひとつでも楽しいことを見つけて幸福な人生を送ればと思います。
- 自分の仕事・生活(育児)のバランスは自分の心がけ次第、ワーク・ライフ・バランスをどれだけ理解しているか…ということだと思いました。制度に頼っていた考え方を見直します。

## いわき発WLBセミナーを開催しました

2月16日(月)にいわき市と福島県男女共生センター主催による「いわき発ワーク・ライフ・バランスセミナー」をいわき芸術文化交流館(アリオス)小劇場で開催しました。参加者160名。渥美由喜さん(富士通総研主任研究員)の基調講演と地元コント集団稲庭うどんの寸劇、渥美さんと安藤哲也さん(NPO法人ファザーリングジャパン代表理事)とのスペシャル対談に時間のたつのを忘れるほど有意義なセミナーとなりました。



安藤さんシナリオによる寸劇は、長時間残業、休日出勤、接待の連続で主人公である男性が倒れ帰らぬ人になるストーリー。劇を通してWLBについて考え、実践することの大切さを発信しました。

渥美さんと安藤さんの対談では、ワークとライフを「やじるべえ」のようにつりあうようにしようとするのではなく、「寄せ鍋」のように楽しんでいこうというメッセージを会場の皆さんに力強く送りました。



## 第8回「福島県男女共生のつどい」をいわきで開催!

# 予告編!



「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」を基軸としたテーマのもと第8回「福島県男女共生のつどい」をいわき市で開催します。

暮らしの見直しを図り、仕事、家庭生活、地域活動、自己啓発において誰もが多様な生きがいを持てるようになるために、認め合い支え合うまちづくりを発信します。

スタッフとして、聴講者として、どなたでも参加できます。お問い合わせは、いわき大会実行委員会事務局：男女共同参画センターまで。

### 日時

平成21年6月27日(土)  
10時30分～16時

### 会場

いわき芸術文化交流館  
アリオス大ホール

### テーマ

『共に生きるころろ  
～つながるひと・まち・しごと～』

### 参加費

500円(資料代)

## キッズd(^o^)bコーナー

### 男女共同参画基礎講座・父親の家庭参画編

「父子(おやこ)de料理『パパ、作って!!』(8/10)いわき市総合保健福祉センターで開催)で実習したメニューの1つを紹介します。

ママにもおしえてあげようね♪

にがてなにんじんでもケーキのなかにはいっていると、おいしいよ!!



### ◆かんたんキャロットチーズケーキ◆

材料(1人分) 116kcal

にんじん(30g=5mm程度の輪切り6切れ)  
クリームチーズ(20g=7mm程度を1切れ)  
さとう(小さじ2)レモン汁(小さじ1/3)卵(1/10個)  
バニラエッセンス(少々)干しぶどう(1個)

- ① にんじんは皮をおき、やわらかくなるまでゆで、マッシャーやすりこぎ棒などでつぶす。
- ② 常温においてやわらかくなったクリームチーズとさとうを①に加え、混ぜ合わせる。(クリームチーズが固いときは電子レンジで軽く温めると混ぜやすくなる)
- ③ ②にレモン汁、溶き卵、バニラエッセンスを加え、泡立て器で全体をむらなく混ぜ合わせる。
- ④ アルミ型に③の生地を流し入れ、干しぶどうのをせ、オーブントースターで15～20分焼く。

## 編集委員募集のお知らせ

平成21・22年度の2年間、Wingの編集委員をしてくださる方を募集します。

本紙の編集に携わってみたい方、男女共同参画の推進について興味のある方など、下記までご連絡ください。なお、募集に関する詳しいことは、4月号の広報誌等でお知らせします。

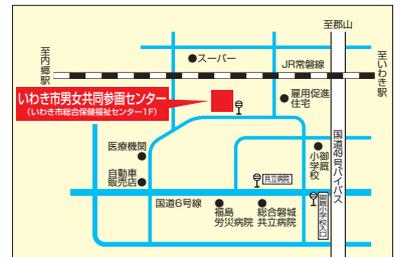
## いわき市男女共同参画センター

市民と行政の協働により男女共同参画社会の実現をめざします。男女共同参画社会についての啓発、人材育成、情報収集・提供、活動・交流支援を行っています。

執務時間：8：30～17：15

休館日：土曜・日曜・祝日等の休日、12月29日～1月3日

あなたも *Wing* に参加してみませんか。ご意見・ご感想をぜひお寄せください。



いわき市男女共同参画情報紙 *Wing* Vol.31  
2009年3月25日発行

発行／福島県いわき市 市民協働部 男女共同参画センター  
〒973-8408 いわき市内郷高坂町四方木田191番地  
TEL. 0246(27)8694 FAX. 0246(27)8641  
E-mail danjokyodosankaku@city.iwaki.fukushima.jp

編集長／鈴木幸男 編集委員／矢作すみ枝 玉橋幸子 村田苗美



IWAKI CITY

創りたい、ゆたかな明日、伝えたい誇れるいわき。

*Wing* は3月・10月発行

本紙は支所・出張所・公民館・図書館・生涯学習プラザなどに置いてあります。

再生紙を使用しています